

13.09.21~23 中央アルプス縦走山行報告

M3 荒川 晶

①メンバー

M3 荒川 M2 田中 (計 2 名)

②行程

9/21(土) 駒ヶ根駅 06:00～(路線バス)～06:50 しらび平 07:00～(ロープウェイ)～07:07 千畳敷 07:30～宝剣山荘 08:20～09:00 木曾駒ヶ岳 10:00～宝剣山荘 10:30～11:00 宝剣岳 11:45～極楽平 12:30～檜尾岳 15:30～檜尾避難小屋 15:50

行動時間：8 時間 50 分 天気：快晴

9/22(日) 檜尾避難小屋 06:15～06:35 檜尾岳 06:45～08:05 熊沢岳 08:15～東川岳 09:35～09:55 木曾殿山荘(木曾義仲の力水を往復)10:40～12:00 空木岳 13:00～14:00 赤柳岳 14:25～15:00 播鉢窪避難小屋

行動時間：8 時間 45 分 天気：晴れ、昼過ぎより曇り、ガス

9/23(月) 播鉢窪避難小屋 04:40～05:35 南駒ヶ岳 06:20～07:20 仙涯嶺 07:30～08:30 越百山 08:40～09:10 南越百山 09:25～09:45 越百山 10:00～10:30 越百小屋 10:45～福栃平 12:45～伊奈川ダム登山口 13:25

行動時間：8 時間 45 分 天気：晴れ時折ガス

③概要

中央アルプスは C2 の時の木曾駒ヶ岳山行の際に一度訪問する機会があった。ただもう一度、今度は空木岳を含めた行程で登ってみたいという希望があり、昨年度も計画したが結局実施には至らず、今年度漸く実施することが出来た。メンバーの都合もあり、登りにはロープウェイを使ってしまったが、行程にも比較的余裕を持ち、また天気にも恵まれたこともあって、中央アルプス主峰からの大展望を 3 日間の間、十分に楽しむことが出来て満足である。なお今回避難小屋利用ということでテント装備を持って行かなかったのだが、山域や季節、曜日の都合にもよるが、混雑時の場合に備えてテントの用意も外せないかと反省である。

④1 日目(千畳敷～木曾駒ヶ岳～宝剣岳～檜尾岳～檜尾避難小屋)

中央アルプスへと山行に向かう際、起点となるのは飯田線の駒ヶ根駅や伊那市駅など。いずれも首都圏からは電車や高速バスを使って 3 時間から 3 時間半前後で移動できるのだが、この距離が仇となり、現地へ直行する夜行バスや夜行列車は現在殆ど運行されていない。行程を決める際に前夜発にするか、初日の朝発にするか迷ったのだが、結局時間に余裕が生まれることを期待して、前者を選択。新宿 20:00 発のあずさから飯田線に乗り継ぎ、伊那市内にあるネットカフェで仮眠を取り、翌朝駒ヶ根駅に移動。駒ヶ根から始発のバスに乗ることにした。

バスから定番のロープウェイに乗り継いで、千畳敷には 07:07 に到着。随分と楽をして標高 2600m まで来てしまったものだと若干後ろめたい気持ちにもなりながら、カールを散策して木曾駒ヶ岳へ。紅葉ピークにはまだ 1.2 週間ほど早いおかげか、バスは駐車場のある菅の台バスセンターで満員になったが、

ロープウェイの混雑はさほどでもなかった。紅葉ピークには 2.3 時間待ちとの噂があるが本当なのだろうかと思う。

千畳敷を訪れたのは C2 の木曽駒ヶ岳山行以来。しかしこの時は天候が崩れ始め、殆ど展望がなかったので、朝の陽ざしを浴びた千畳敷カールを眺めて、ここはこんなに素晴らしい場所だったのだと再認識させられた。少々荷物を整えたりして登山客観光客相まみえる中を、宝剣山荘へ向けて出発、3 年前のことを思い出しながら、宝剣山荘、中岳、と通過して 2 時間ほどで木曽駒ヶ岳山頂へ。

以前は何も見えず、取り急ぎ写真だけを撮影して下山したのだが、今回は周囲 360 度広がる大展望が広がっていた。多くの登山客、観光客が出入りする中、M2 田中と地図を取りだし、あれが御嶽山に始まり槍穂高、八ヶ岳、富士山、甲斐駒仙丈塩見荒川赤石聖だねとひとしきり山座同定を云々としていた。時間には余裕があったので、かれこれ 1 時間近く展望を眺めたりしながら時間を過ごす。北側斜面には長城木曽小屋・玉ノ窪山荘が広がっていたが時間帯の問題もあってかこちらから登ってくる登山者は殆ど見かけなかった。



千畳敷内剣が池より宝剣岳、乗越浄土方面の稜線を望む。既に多くの登山客でにぎわっていた。



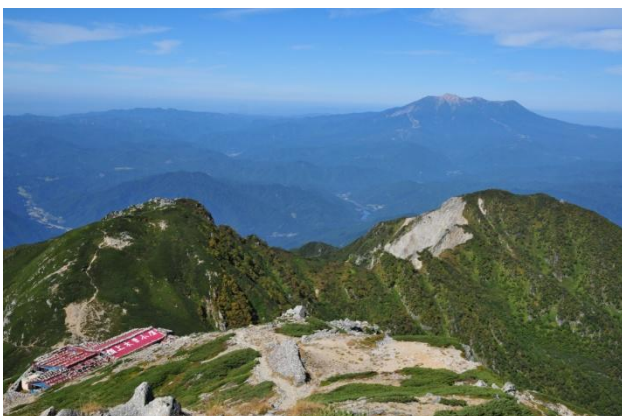
振り返ると赤石岳・聖岳など南アルプスの主脈を遠望しながら、千畳敷カールを登って行く。



(左上)中岳山頂付近より、独特な山容の宝剣岳。その右には空木岳と南駒ヶ岳が見える。

(上)同じく中岳山頂より駒ヶ岳頂上山荘、木曽駒ヶ岳。多くの登山客でにぎわう。

(左)木曽駒ヶ岳山頂より、頂上木曽小屋・御岳山





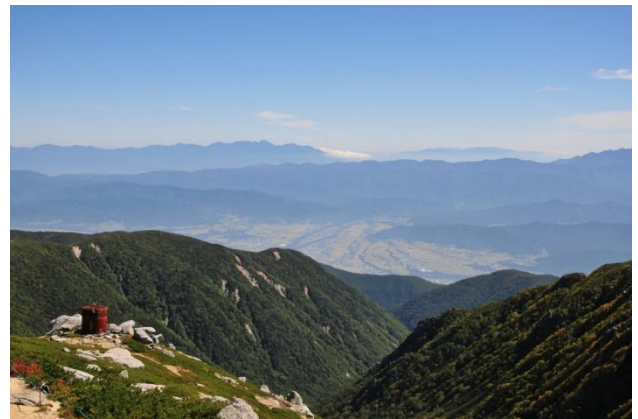
木曽駒ヶ岳山頂より、南ア遠望。左から甲斐駒・仙丈・北岳・間ノ岳・塩見岳など。稜線越しに富士山も見える。



北アルプス遠望。左より笠ヶ岳、穂高槍、立山連峰、大天井岳・常念岳、そして後立山連峰。一段手前に伸びるのが、大滝山～徳本峠の稜線。



山頂には祠や鳥居など、信仰の対象になっていることを伺わせる建物がいくつか見られた。



伊那盆地の向かいには、八ヶ岳と奥秩父の山並みが広がる。この日は本当に良い天気だった。

木曽駒ヶ岳山頂を出発したのは10時過ぎ、ここからのんびりと駒ヶ岳頂上山荘、宝剣山荘を通り、今度は宝剣岳へ。「登攀技術のない方は立ち入り禁止です」との看板が立っており、一般の観光客が安易に立ち入らないようにされているようだった。山頂直下にちょっとした鎖場があり、ここでの事故が何件かあったとの話は聞いていたので、多分このことを指しているのだろうなと思っていると、案の定警備員を配置するほどの慎重な管理体制だった。花崗岩がひしめき合うやや狭い山頂に到着。ここも日帰りで登山を楽しむ人の出入りが絶えない。眼下に千畳敷カールを見下ろしながら、ここでも眺望を楽しんで時間を過ごす。最高点は一つの大きな岩になるのだが、ここも入れ替わる人の合間を縫って訪問。ここに立ってみると、文字通り眼下には360度の眺望が広がり、素晴らしい眺望だった。

昼食を食べ終えて出発。極楽平まではやや険しい岩稜帯の下りが続く。途中で三ノ沢岳への道が分岐する箇所も。極楽平までは、千畳敷方面へと向かうと思われる人々を何人か見かけたが、ここを過ぎると殆ど人は見かけなくなった。中央アルプスらしい花崗岩の岩が所々でゴロゴロとしている登山道をのんびりと歩く。地図上縦走路はなだらかに見えるが、小ピークの登り返しが幾つかあり、少々面倒であった。正面には明日歩く空木岳と南駒ヶ岳が大きく聳え、また右には三ノ沢岳がどっしりと構えている。山容も雄大で遠方からでも目立ち、かなり良い山だと思うのだが、いかんせん訪ねる人が少ないのはや

はり名前負けしているからではないかなあとかそんなことを話しながら檜尾岳の山頂へ。ここから足元の悪い道を少々下り、今日の目的地となる檜尾避難小屋へ到着。

定員は10人程度で、あまり広くないとのことだったが、週末とはいえ連休前なので何とかなるだろうと思って来てみたが、ここは既に一杯だった。今回は避難小屋宿泊前提の行程で、テントを持ってきていなかったのも、これは困ったなあと思ったが、ツェルトを張って寝るか、土間などの空いているスペースを借りて寝るか、どうしようか少々考えたが、結局後者を選択。既に泊まっている人にそのように断って支度を始めていたら、1組のグループがテントを貸そうかと言ってくれた。山で、緊急時以外に人から装備品を借りるのは正直に言ってあまり気持ちの良いものではないので、断ろうかと思っていたら、**M2** 田中がその提案にあっさり同意してしまったので、結局そうすることになった。このあたりの一連のプロセスでかなり時間を食ってしまい、西の稜線に沈む夕日や、その前後の夕景を楽しみそびれてしまったのが残念だった。

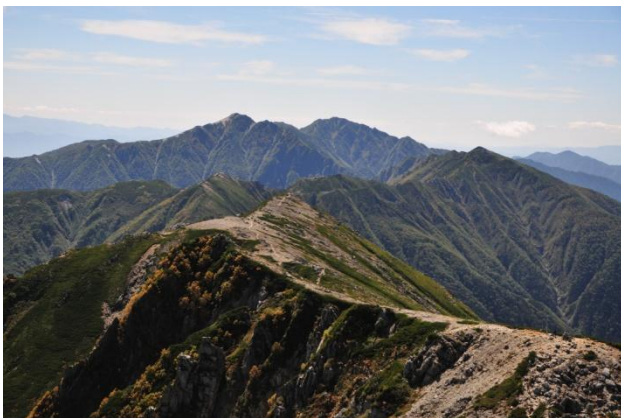
夕食後に伊那の夜景と南アルプスと満月の写真を何枚か撮影して、気分も少々落ち着いたところで就寝。部で普段使っている2人用テントは、一式でもせいぜい1,500g程度の重さなので、多少嵩張ってザック内が狭くなってしまうのが最大の難点だが、結局は大した重さではないので、次回からは人の多い山域かどうかや避難小屋の大きさによっては避難小屋泊の山行でもテントを持っていた方がいいかなと思った。



宝剣岳山頂直下の岩場。C2の時も通過したが、ガスに巻かれて眺望ゼロだった。



宝剣岳山頂より三ノ沢岳。もう少しいい名前があれば、訪れる人も多くなったのではなかろうか。



南方には檜尾岳、熊沢岳、空木岳、南駒ヶ岳と中央アルプスの主脈が一望できた。



千畳敷カールを見下ろす。その向こうには南アルプスが一望のもとに広がっていて圧巻だった。



山頂から岩稜帯を降り切った所で 1 枚。この日は本当に天気が良かった。



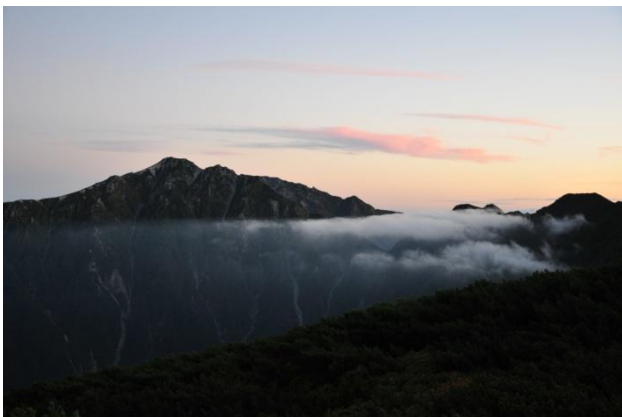
極楽平付近から振り返って 1 枚。中央右が宝剣岳。左から、なだらかな木曽駒ヶ岳と中岳。



花崗岩の岩が散在する雰囲気は、中央アルプス独特のもの。



檜尾岳より今日のルート振り返る。宝剣岳、木曽駒ヶ岳の左には木曽前岳も見える。



(左上)黄昏時の空木岳。浮き上がる雲がこの風景を幻想的なものにしてくれた。

(上)宿泊者の方から借りたテント。ベテランのグループのようで、かなりの年代物だった。

(左)夜間に夜景と南アルプスの写真を撮影。薄雲が丁度よい位置に掛かり、連なる 3000m 峰のピークのみが顔を出す素晴らしいシーンだった。



⑤2 日目(檜尾避難小屋～檜尾岳～木曾殿越～空木岳～赤檜岳～播鉢窪避難小屋)

この日も雲ひとつない快晴に恵まれそうであったので、4:30 頃に起床。次第に明るくなってゆく空を眺めながら朝食の支度。ご来光の写真を撮ってから、テントを借りた方へと返却。今日も良い天気になりそうだ。この日の行程もさほど長くはないので、のんびりと支度をして 6 時過ぎに出発。森林限界を越えた稜線に当たる朝日が心地よかった。

15 分ほどかけて檜尾岳に登り返し、再び岩稜帯の続く稜線を歩く。7 月に韓国人グループが遭難事故を起こした所だが、地形上確かに風を防げるような場所も少なく、雨天・荒天時に歩くのは装備が万全だったとしても苦行となるだろうなと感じた。熊沢岳・東川岳、とこちらも今一步印象に残りにくいような名前のピークの他、幾つかの小ピークを越えて、木曾殿越へ。次第に空木岳と南駒ケ岳が、丁度北穂高から見る涸沢岳と奥穂高岳のような塩梅で並び、目の前に近づいて来て心地よい。

今晚の宿泊地である播鉢窪避難小屋付近には水場がないので、ここから歩いて 7.8 分ほどの木曾義仲の力水を汲みにゆく。この先越百小屋を過ぎるまで水場はないため、万一にでも涸れていたら残りの行程を歩き切るのは大変だろうなと思っていたが、幸いにも水量は豊富にあり、ここで許容量いっぱいまで水を準備しておいた。

一服してから空木岳への登りに取り掛かる。ここからは 400m 近い登り返しとなる。始めはお花畑の広がる斜面だが、山頂が近付くにつれ花崗岩の岩稜を登ることになる。1 時間少々に登りで、空木岳の山頂へ。縦走ルートの登山道で見かけた人はあまり多くなかったが、菅の台方面から日帰りや前泊で往復してくる人が多いようで、木曾駒ケ岳ほどではないにせよ、かなりの賑わいであった。



甲斐駒ケ岳の山頂付近からご来光。



視野を広げると、南アルプスの稜線が広がり、上空は深い紺色に染まっていた。



朝日を浴びる檜尾避難小屋。遠方からでも良く見える立地だが、収容人数は多くなく、10 人ほどのようだった。トイレ併設。水場は檜尾橋方面へとう少々下った所に、細いながらも流れていた。遭難した韓国人グループのうちの何名かはこの小屋で難を逃れたのだとか。



熊沢岳付近から北面展望。三ノ沢岳を左に、木曾駒、宝剣、そして檜尾岳が見える。



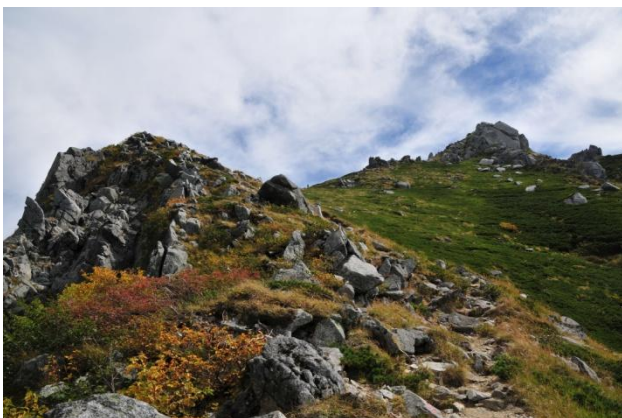
稜線は花崗岩質だが、時折ハイマツのブッシュ内を歩く箇所もあった。近景に M2 田中、遠景に空木岳。



東川岳より南面展望。左に空木岳、中央右のピークが赤檜岳、その右に南駒ヶ岳。

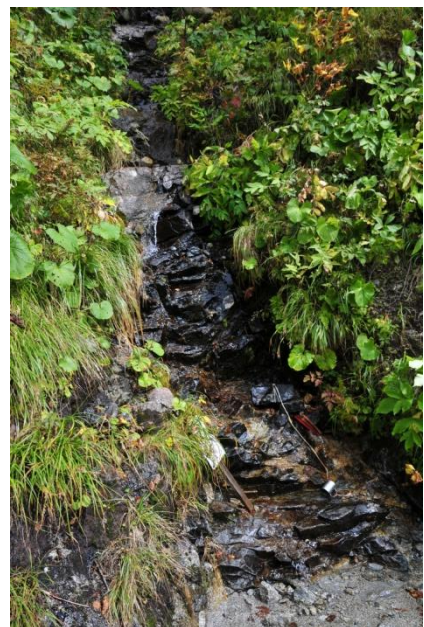


木曾殿山荘。立地から想像していたより小さい印象を受けたが、内装は綺麗だった。



空木岳方面への登り。紅葉は見頃ではないが、稜線付近では少しずつ色づき始め、草紅葉も見られた。

(右)木曾義仲の力水。水量は豊富だった。





山頂近くになると花崗岩の岩稜帯をいくつか乗り越える。遠景に東川岳と御嶽山。



一旦は見えなくなった木曽駒ヶ岳が、山頂に近付くにつれ再び姿を現した。

空木岳山頂にて、この日もしばしの休息。私はすぐ近くの駒峰ヒュッテに何か売っていないか見に行ってきた。ここも思ったほど大きな小屋ではなく、閑散としており、木曽駒ヶ岳界限とは違った落ち着いた雰囲気があつてほつとした。また眼下には空木平避難小屋があり、こちらも池山尾根を使うルートでは利用できそうな小屋だなと実感した。(実際この日もかなりの利用客があつたようだ)

この日はこの時間帯からは少しずつ曇ったり、周囲の山々にもガスが出始め、昨日のように 360 度の大展望というわけにはいかなかったが、木曽駒ヶ岳方面の稜線、また南駒ヶ岳方面やさらに南部の山々を一望することが出来て、満足のゆくひと時であつた。木曽殿山荘でも見かけた大学生グループに写真を撮ってもらつて出発。

さらに人の少なくなった登山道を赤檜岳に向けて歩く。空木岳からピストンしてきた様子の何名かの登山客とすれ違つたりして、1 時間ほどでピークに。ここまで来ると、ようやく眼下に今晚の宿泊地となる、挿鉢窪避難小屋を見ることが出来た。この小屋のある挿鉢窪カールは、百間ナギと呼ばれる大崩落地に繋がっており、小屋付近の崩落が激しいと聞いていたが、本当に小屋のすぐ手前まで地盤が崩落しており、そのうち小屋も崩れてしまうのではないかと思えるような位置だつた。眼前に迫る南駒ヶ岳と、背後の空木岳の展望が素晴らしい。

30 分ほど景色を眺めている間に数人が通過していった。避難小屋に向かう人も多いのだろうと思つていたら、半数はそのまま南駒ヶ岳方面へと登り返してゆく。とすると越百小屋まで歩くのかなと思ひながら、避難小屋までの道を下る。ここの下りは地盤の特徴のせい、崩落が進んでおり、思いのほか歩き辛くて時間が掛かつてしまった。それでも 15:00 前には避難小屋に到着。この小屋は昨日の檜尾避難小屋と比べても随分と広く、詰めれば 30 人は収容できるのではないかと思えるような広さだつた。先客は先程写真を撮ってもらつた大学生グループ 4 名のみ。その後、単独行の男性が 2 人やってきたのみで、広々とスペースを使うことが出来て、M2 田中はいたく喜んでた。空木岳を過ぎてやや登山客も少ない場所であり、なおかつ水場がないことも影響しているのかなと思つた。

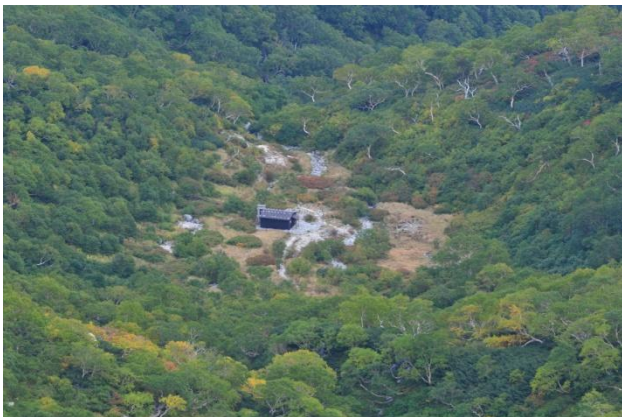
持ってきたうすゆき 2002 とうすゆき 1998 を読みながら時間を潰し、早めの夕食。夜になるとガスはなくなり、美しい星空が広がっていた。カール地形を見ると何処となく涸沢を思い出すなどか考えながら就寝。



空木岳山頂より駒峰ヒュッテ方面遠望。駒ヶ根の街並みと、遠くには南アルプスの山並み。



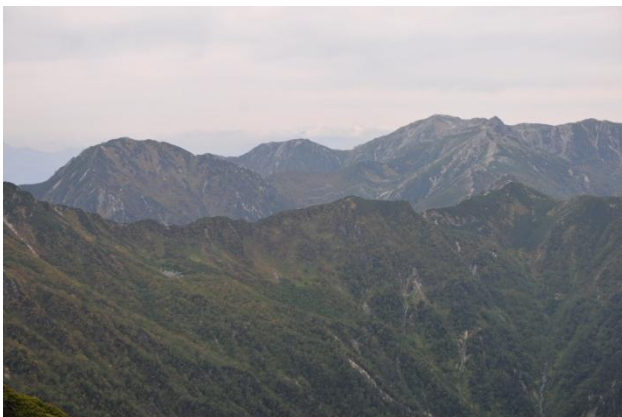
南方面には、赤檜岳と南駒ヶ岳が姿を連ねている。



空木平避難小屋を遠望。森林に囲まれた穏やかな立地である。



駒峰ヒュッテはこじんまりとした小さな小屋。テラスで登山客が多く休んでいた。



(左上)北面には檜尾岳～熊沢岳の稜線越しに、木曾駒ヶ岳、宝剣岳、木曾前岳、三ノ沢岳が並ぶ。

(上)山頂にて記念写真。昨日はどこも人が多くて、写真を撮ってもらう気になれなかった。

(左)赤檜岳への縦走路から。正面に赤檜岳・南駒ヶ岳を望む。黒覆尾根上にあるのコブ状の無名峰が特徴的だ。





赤桧岳山頂から播鉢窪カールを覗く。中央下の赤いものが避難小屋。百間ナギの崩落が迫る。



小さな棒を 1 本立てただけの赤桧岳山頂。御嶽山を遠景にして 1 枚。



空木岳方面を振り返る。今回の山行ではこの眺めが一番印象的だったと思う。



播鉢窪避難小屋遠望。まだこの時点ではだれも到着していなかったようだ。



(左上)播鉢窪カールへの道を下る。ガレていて足元が危なっかしかった。

(上)播鉢窪避難小屋。入口は稜線と反対側にある。
(左)カール一帯では、紅葉にはまだ早かったがナナカマドが赤い実をつけていた。普段は人の少ないこの場所も、紅葉シーズンには人であふれかえるのだとか



⑤3 日目(播鉢窪避難小屋～南駒ケ岳～仙涯嶺～越百山～南越百山～福栃平～伊奈川ダム)

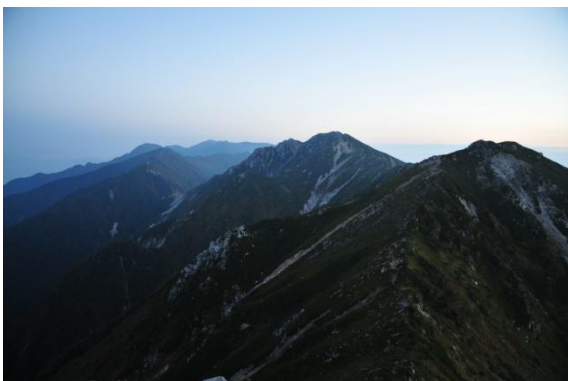
今回は帰りの交通手段は電車なので、下山後利用することになる須原駅の電車の時刻に合わせて行動開始。時刻は須原発が 14:58 と、その次 17:44 までないので前者の列車に合わせ、登山口に 14 時前に到着できるようにした。このため起床は 04:00。簡単な朝食を済ませて 04:40 頃に南駒ケ岳に向けて出発。日の出前の時間帯であったが、この日小屋に泊まっていた人はほぼ全員が我々と同様、4 時前後に起床し、出発の支度を始めていた。

暗い中ヘッドランプを付けて昨日通ったガレた登り返しの道を歩き、南駒ケ岳までの稜線を歩く。ピークは目の前だが思いのほか登りはきつく、到着したのは 05:30 過ぎ。ほぼ同時に東の空からご来光。3 日間良い天気にも恵まれたことに感謝しつつ、ここで朝日を眺めながらしばらく休憩。この間に空木岳方面に向かった 1 人を除いて、大学生グループと単独行の方 1 名が通過していった。顔なじみになった相手方のグループの方に写真を撮ってもらった。

地形上、木曾駒ケ岳～空木岳の稜線を歩いている間には殆ど見えなかった仙涯嶺以南の稜線がここから漸く一望することが出来るようになる。仙涯嶺、越百山、そしてさらに遠くに伸びる奥念丈岳、念丈岳、安平路山などの山々が青い稜線として連なっているのが初めて見え、3 日間かけて随分と長い距離を歩いてきたものだと感慨深い。休憩している間に大学生グループを先行させて出発。

仙涯嶺に至る道は岩場が続きやや通過に苦労する。岩場を登降したり少しずつ目立ち始めたハイマツの中を歩いたりしながら、1 時間と少々で仙涯嶺に到着。通過する登山客はまばらだが、それでも越百小屋方面から歩いてきた人が何人かいた。ここは何故か看板が置かれている目の前に高さ 10m 程の岩稜のピークが佇んでおり、折角なので高いところで休もうということでそちらのピークで休息した。ここからの展望も素晴らしい。

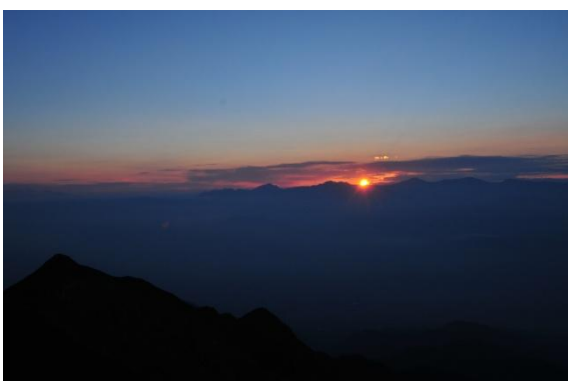
10 分ほどの休憩の上で出発。ガイドブックにて、中央アルプスは越百山を境にして、北部はアルピニックな花崗岩並ぶ縦走路、南部は人気の少ない藪と書かれていたがまさしくその通りで、仙涯嶺を過ぎた辺りから少しずつ岩稜帯は姿を消してゆき、ハイマツや花崗岩が風化して出来たと考えられるような白砂の稜線が広がり、山の雰囲気の変化を間近に感じる事が出来て興味深かった。岩稜帯がなくなったので大分歩きやすくなり、1 時間ほどかけて越百山の頂上に立つことが出来た。



(左上)夜明け前の北方展望。赤柳岳、空木岳、そして木曾駒ケ岳方面。この時間帯を余裕を持って楽しみたいものだが、中々機会が訪れない。

(上)山頂到着とほぼ同時にご来光。

(左)この日は北岳と間ノ岳の間から拝むことに。





山頂で記念写真。ほぼ真正面から差してくる朝日がまぶしい。



山頂を後にし、中央やや左の仙涯嶺、やや右遠方に見える越百山を望む。山容の違いが分かる。



砂礫の崩落地をトラバースする区間も何箇所もあり、通過に慎重を要する。



仙涯嶺山頂から南駒ヶ岳。手前の広場に仙涯嶺の看板が立っていた。



(左上)仙涯嶺山頂から越百山を望む。その向こうは左から奥念丈岳・安平路山など。見えにくいけど遠くにうっすらと恵那山も見えた。

(上)越百山付近から、仙涯嶺、南駒ヶ岳遠望。越百山以南の山並みとの雰囲気の違いに驚かされる。

(左)越百山山頂にて。白砂の輝く静かな所であった。



越百山山頂で一服入れたあとは、下山の時間を確認して、何とか時間を工面できそうだったので南越百岳を往復することに。往復 1 時間程度と見積もって歩き始めると、すぐにハイマツの藪の中を漕ぐようになる。ただ踏み跡はしっかりしており迷いそうになるようなことはなかった。10 分ほどして中小沢方面への登山道との分岐点に。ここは T 字路の筈なのだが、何故か伊那側につけられている登山道から稜線を越えるような道が出ていて十字路になっており南越百山へのルートはどちらか少々迷ってしまった。結果的には真っ直ぐ行けば良いようで、再び藪の中を歩いて 10 分ほどで南越百山に到着。山頂は思いのほか広々としており、所々にケルンが立ち並んでおり居心地は良い。少々ガスっていたが奥念丈岳や安平路山などの展望は中々良く、藪漕ぎとなるルートだが何時かはここを歩いてみたいと思わせるに十分な魅力があった。

ゆっくりしたかったが、ここは時間の都合もあり 15 分ほどで出発。もときた藪っぽい道を、ちょうどこれが藪漕ぎの入門みたいな感じなのかなとか言いながら、歩いて越百山まで登り返す。ここでいよいよ 3 日間掛けて縦走してきた稜線のルートともお別れだなと思う。携帯電話は何とか通じそうだったので、下山前に伊奈川ダムからのタクシー会社に連絡。通話はかろうじて出来るものの電波状況は不安定で、最後まで会話が續かないまま、途中で途切れてしまった。越百小屋で電話が使えとの事だったので、そのまま下山開始した。

赤い屋根が特徴的な越百小屋にて小休止。越百川をずっと遡行してきたのか、小屋手前の沢をザイルを使って登ってくる 4 人組がいた。小屋番の人に頼んで、電話を借りようとしたが NG.との事。本当にタクシーが来てくれるのか不安だったが、多分大丈夫だろうと見込んで下山開始。

小さなピークを巻いてから尾根筋を次第に下るようになる。30 分ほど歩いたところで水場があり、昨日の木曽義仲の力水以来の水場だったので水を入替。ここも水量が豊富だった。もともと時間カツカツの計画だったが、現時点で時刻は 11:20。ここからコースタイムでは 3 時間 10 分なのでどう考えて時間がなくなりそうだったので、ここからは半分駆け下りるような格好で尾根筋を下る。ここで大きくコースタイムを削減し、1 時間 30 分の所を 50 分ほどで通過して一気に下のコルまで。ここで小休止を挟んで福栃平まで下山して 12:45。もともと設定がかなり緩めに作られているようだが、ここまでコースタイムのおよそ 1.5 倍のペースで下ってきた計算になる。

南駒ヶ岳と越百山への分岐を示す看板を眺めたりして、あとは林道歩きだけだなと考えながらのんびりと歩いて伊奈川ダムへ。時間にも余裕ができたので、昨年春に行った大崩山の祝子川溪谷を思い出すような巨岩がゴロゴロする溪谷の眺めを楽しみながら歩いて 40 分ほど、伊奈川ダムの登山口に着いた。

丁度時を同じくしてタクシーが 2 台やってきたのでこれはきっと自分たちを迎えにきたに違いないと思っていると、どうやら違ったようで、別の 2 パーティーから予約が入っていてそのための車なのだから。でも相乗りしていけばいいよと言われてしばし待つ。ちょうど 14:00 頃に単独行の女性が降りてきて、その方の到着を待って出発。料金は須原駅まで事前の噂通り ¥5,250。若干の割高感がしないでもないが、それなりの山道を往復する手間のことなどを考えれば仕方がないのだろう。

この後は予定通りの普通列車に乗車し、塩尻で特急あずさに乗換え、都内に戻った。避難小屋がいっぱいで対応に苦慮したり、また最後の最後で危うくタクシーを呼びそびれたり結構危なっかしい点もいくつかあったが、天候にも恵まれて心地よい山行とすることが出来て良かったと思う。



越百山から南面展望。左手前が南越百山、そこから右方向に奥念丈岳～安平路山の稜線。



越百山から先は一転してハイマツを漕ぐ道となる。ルートはしっかりしているが、違いに驚いた。



中小沢ルートとの分岐点にて。枝道が迷い易い位置にあり、ルートの選択に迷った。



南越百山山頂にて。高いケルシと棒 1 本の標識が特徴的であった。



(左上) 越百山方面の展望と M2 田中。ここの雰囲気が入ったようで、周囲を楽しそうにあちこち歩き回っていた。

(上)再びハイマツのブッシュを潜り抜けて越百山へ。復路は M2 田中を先頭にさせた。

(左)山頂を出発し越百小屋へ。色調の強い赤色にぬられた屋根が特徴的。布団干し中だった。





越百小屋から樹林帯を下る。登りはスタートから森林限界を越えてしまったので今山行では初めての樹林帯。



しばらく降りた所の水場で水を補給。ここも水量は豊かで涸れる心配はなさそうだった。



登山道は所々ササ藪を丁寧に刈り取った箇所があり歩きやすい。越百小屋の主人がこのルート整備を一手に引き受けているとか。



福栃平まで下山。大分時間に余裕が生まれた。越百山方面には、「KOSMO」の記載があり興味深い。



巨岩と透き通った水の美しい伊奈川溪谷に沿って林道を下る。



最後はゲートをくぐって、駐車場付近へ。休憩していたらここまでタクシーの人が来てくれた。

(以上)